

基本目標 1 時代を切り拓く力を育む「学び」の充実

施策 1 確かな学力の定着を目指す「学び合う学び」を基本とした授業の推進

現状・課題

- 平成30令和2年度から小学校で、平成30令和3年度から中学校で、新しい学習指導要領*が**全面完全実施されましたこととなります**。新学習指導要領*では、新しい時代に必要となる資質・能力として「学びに向かう力・人間性」「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」を掲げています。本市でも、これらの資質・能力を育む教育を進めていく必要があります。
- これからの学校教育において、「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニング※という視点からの授業改善の充実が求められています。これは講義形式の教育ではなく、児童生徒が課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶものであり、本市では従来から「学び合う学び」の授業実践により先駆的に取り入れてきたものです。
- 各学校で「学び合う学び」を進めてきたことにより、人と関わり合いながら学ぶ姿勢の定着や授業についていけなくなる児童生徒の減少、応用力の向上といった、様々な成果がみられています。本市の学校教育の特色である児童生徒同士、児童生徒と教員の関わりを重視した「学び合う学び」をさらに推進していくことが重要です。
- AI やビッグデータ等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあります。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は世の中全体のデジタル化、オンライン化を大きく促進しています。こうした流れのなか、これからの学校は、「学び合う学び」とともに「個別最適な学び」を推進する視点から、ICTを最大限活用していくことが求められています。
- アンケートの結果によると、本市の児童生徒保護者は、児童生徒の学力や教員の指導力に関心が高く、充実を求めていることがわかりました。「全国学力・学習状況調査」等の分析結果を踏まえた指導の充実や、教員の授業力向上による指導の充実などにより、児童生徒の学力向上を図っていく必要があります。
- 本市では、個に応じたきめ細かな指導を行うための少人数指導や「学習チューター*」による授業支援、**全小中学校への電子黒板*、指導者用デジタル教科書児童生徒1人1台タブレットPC、授業支援ソフト**の整備など、児童生徒の理解を深めるための授業を展開しています。
- 「全国学力・学習状況調査」の結果によると、本市では児童生徒ともに記述式問題などの「書くこと」が苦手な傾向がみられます。友達の意見を聞いたり、みんなで話し合ったりする力は「学び合う学び」のなかで育まれているため、今後は苦手分野の底上げを図る取組を進めていく必要があります。

具体的な取組

取組	内容	担当課
互いに関わり合い学び合う授業の実施	教員が一方向的に知識を教えるのではなく、児童生徒が相互に学び合い、多様な考えにふれることで、新しい気づきや思いやり・他者理解を深める「学び合う学び」の授業の実現を図ります。	学校教育課
「学び合う学び」を支える教員研修の実施	研究委嘱校の指定や研究発表会等の実施、学校間の交流促進、今日的課題に対応するための研修会の開催等を通じ、「学び合う学び」を支えるための教員の指導力・授業力の向上を支援します。	学校教育課
全国学力・学習状況調査の活用	「全国学力・学習状況調査」の結果を分析し、その分析結果を活用して教育施策や授業等の改善に役立てます。また、調査の分析結果で明らかとなった本市の児童生徒の弱みとなっている学力分野の底上げを図ります。	学校教育課
市単独での小・中学校への非常勤講師の配置	少人数指導の実施などに対応するため、きめ細かな学習指導や生徒指導の充実を目指して非常勤講師を配置します。	学校教育課
学習チューター※派遣事業の実施	主に教員志望の大学生を、「学習チューター※」として市内小中学校及び公立幼稚園へ派遣し、授業や学校生活の支援を行います。	学校教育課
情報活用能力の育成	ICTを活用し、情報の収集、理解、整理、発信、共有等を行うことができるよう、情報活用能力を育成します。	学校教育 ICT 推進室



応時中学校



米野小学校

施策 3 未来にはばたく人材の育成

現状・課題

- キャリア教育^{*}は、児童生徒が社会的・職業的に自立し、自分らしい生き方を実現していくために重要なものです。本市では、中学校2年生の生徒を対象に「職業人体験学習」を実施し、地域事業所の協力のもとで社会人としての資質の基礎を学ぶ機会を設けています。
- 本市では、平成26年度から「夢の教室」を実施しています。「夢の教室」では、一流のスポーツ選手を「夢先生」として招聘し、講義と実技を通じて児童生徒に夢を持つこと等の大切さを伝えています。
- 市民アンケート、児童生徒保護者アンケートでは、教育に活用すべき本市の特色として、「企業」と回答する人が多くみられました。各学校では、地域の工場や農家等との連携のもとで地域に根差した授業を実施していますが、今後もさらに、地域で事業展開する航空機産業や様々なものづくり企業と連携したキャリア教育^{*}や理数教育を推進していく必要があります。
- 社会のグローバル化等に対応するため、外国語教育の充実等が必要となっており、平成32年度から順次実施される予定の新しい学習指導要領^{*}の内容には、小学校中学年以降の英語教育の本格実施などが含まれています。本市ではすでに小学校低学年から外国語にふれる活動に取り組んでおり、小学校への外国語指導助手（ALT）の配置や、中学校の指導内容との連続性を考慮した市独自の英語活動カリキュラムを作成するなど、充実を図っています。
- 本市では、令和2年度に児童生徒1人1台タブレットPCを整備し、授業等で活用しています。また、臨時休校時等において、家庭と学校をつなぎ、学びを保障するため、ICTの活用を推進してきました。今後は、学習履歴等を活用し、児童生徒一人ひとりの特性等にあった多様な方法で学習を進めつつ、多様な人々と協働しながら学習を行うため、ICT教育の充実を図っています。さらに、近年、多様な情報ツールが普及し、こどもでもインターネットに触れることが増えています。情報を適切に活用できる能力の育成と同時に、ルールやマナー等に関するネットワーク上での様々なトラブルを回避するための知識や、情報モラル^{*}を身につけることが重要です。



キャリア教育^{*}



キャリア教育^{*}

具体的な取組

取組	内容	担当課
地元企業等と連携したキャリア教育*の推進	学校・地域・企業・保護者等、様々な主体との連携のもと、生徒一人ひとりの、自分の進路を選択・決定する能力や確かな勤労観・職業観、「職業人」としての資質を育むキャリア教育*を推進します。	学校教育課
「夢の教室」の実施	夢を持つことや、夢の実現に向けて努力することの大切さを児童生徒に伝える機会として、「夢の教室」を実施します。	学校教育課
理数教育の推進	児童生徒の科学技術に対する興味・関心を高める取組を推進するとともに、理科授業の充実を図ります。また、JAXA（宇宙航空研究開発機構）との連携により、専門性の高い、魅力ある授業を展開します。	学校教育課
小中学校における英語教育の推進	外国語指導助手（ALT）の配置や独自カリキュラムの活用などにより、小中学校の英語教育の充実を図ります。	学校教育課
情報活用能力・情報モラル*の育成	<p>児童生徒の情報活用能力を育成します。（再掲）</p> <p>また、セキュリティを確保しつつ、クラウドサービスや学習履歴等を効果的に活用した学びについて研究・実践を行います。</p> <p>コンピュータシステムを活用した授業法の研究開発を行うとともに、インターネットホームページやEメールを活用した学校の情報発信、情報交換等を行います。また、児童生徒への情報モラル*教育を推進します。</p>	<p>学校教育課</p> <p>学校教育ICT推進室</p>



ALTによる英語教育

基本目標 2

認め合い高め合う豊かな心と、健やかな体の育成

施策 7 道徳心・社会性の育成

現状・課題

- 今後、さらなるグローバル化の進展により、多様な文化や価値観を持つ人々と協働して社会を形成していく力が求められてきます。そのため、未来の担い手となる子どもたち一人ひとりが、基本となる倫理観やルールやマナー、道徳心・社会性を身につけることが非常に重要になっています。
- 小中学校の道徳の授業は、小学校で平成 30 年度から、中学校で平成 31 年度から、「特別の教科」として教科化されます。
- 現代のいじめの問題は深刻です。いじめは児童生徒の心に大きな影響を及ぼすことを踏まえ、根絶に向けたさらなる対策が必要です。
- 本市では、「小牧市いじめ防止基本方針」及び各学校における「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校におけるいじめへの対策に取り組んでいます。また、学校におけるいじめの未然防止、いじめの早期発見及びいじめへの早期対応を実効的に行うため、「いじめ問題対策委員会」及び「いじめ問題対策連絡協議会」を設置しています。

○現代は、スマートフォンやSNSなどの情報ツールが普及し、どこでも誰もがインターネットを使って情報発信したり交流したりすることができます。一方で、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪などが大きな社会問題となっています。子どもたちが情報を正しく安全に利用できるよう、情報モラルや情報セキュリティ等に関する知識を身につけるとともに、情報化社会において適切に判断できる力を磨いていくことが重要になっています。



生と性のカリキュラム



「ジュニア奉仕団」活動

具体的な取組

取組	内容	担当課
道徳教育の推進	道徳の授業の教科化を見据え、授業の実施方法、家庭や地域等との連携方法について研究を行い、道徳教育の充実を図ります。	学校教育課
人権教育の推進	児童生徒の発達段階に応じた指導等を行うとともに、人権週間等の機会をとらえながら、様々な人権問題について考え、学ぶ機会をつくります。	学校教育課
生命尊重に関する教育の推進	小牧市独自のカリキュラム「生と性のカリキュラム」を小牧市内の小中学校で実施します。また、市内高校とも連携し、高校における「生と性のカリキュラム」の実施につなげます。	保健センター 学校教育課
情報モラル [※] の育成	家庭にも協力を仰ぎながら、児童生徒が [△] の情報モラル [※] や情報セキュリティについて学ぶ機会をつくります。教育を推進します。(一部再掲)	学校教育課 学校教育ICT推進室
児童生徒のボランティア [※] 活動の促進	児童生徒の主体的な福祉ボランティア [※] 活動などを推進するとともに、中学生による「ジュニア奉仕団」活動等を促進します。	学校教育課 社会福祉協議会
生徒指導等を通じた規範意識の育成	家庭や地域等と連携しつつ、道徳の授業や学校での生活指導を通して、児童生徒の自主的活動を支援するとともに規範意識を醸成します。	学校教育課
いじめの未然防止と指導の強化	「小牧市いじめ防止基本方針」に基づき、総合的ないじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組みます。また、いじめへの対応を協議する各種会議を開催し、迅速な対応を行います。	学校教育課

情報モラル[※]教育

施策 12 教職員等の資質や指導力の向上

現状・課題

- 平成32年度から、~~順次~~新しい学習指導要領を踏まえ、~~※が実施されることとなります。~~教員にはICTを最大限活用しながら、新たな教育に対応するための研究や授業改善などが求められています。
- 本市では、「学び合う学び」を推進する中で、同僚性を生かした校内授業研究や、実効性のある参加型の教職員研修を実施しています。また、市教育委員会では、研究委嘱校を指定し、研究発表会を通じた市内各校への研究結果のフィードバックを行っています。今後も、より質の高い授業を目指した授業研究や教職員研修の取組を充実させていく必要があります。
- 教職員には、食物アレルギーへの対応や特別な支援が必要な児童生徒への対応など、今日的課題に対応するための知識・指導技術も求められており、さらなる教職員研修内容の充実が必要となっています。また、同時に教職員の多忙化も指摘されており、教職員のメンタルヘルス対策や多忙化解消も重要な課題となっています。
- 市民アンケートでは、授業以外で教員が優先すべき業務として「教員自らの資質・能力向上のための研修」が最も多くあげられました。また、アンケート結果の分析からは、教員の指導力の向上は、特に重点的に取り組むべき事項であると位置づけられました。

具体的な取組

取組	内容	担当課
教職員研修委員会の充実	教職員研修委員会において、総合的な授業研究や教員研修の充実を図るとともに、今後を見通した研修等の企画を行います。	学校教育課
参加型の教員研修の推進	教員のキャリア等に応じ、一人ひとりの意欲や授業力を高めるための参加型の教員研修を推進します。	学校教育課
授業研究の推進	同僚性を生かした校内授業研究の充実を図ります。	学校教育課
学力向上のためのスーパーバイザーの招聘	スーパーバイザーの招聘などにより、児童生徒の学力向上に向けた研修の充実を図ります。	学校教育課
研修を目的とした学校間の交流促進	市内の学校、教員同士が指導力向上に向けて相互に学び合うことを目的に、学校間での交流を促進します。	学校教育課
今日的な教育課題に対応した研修の実施	今日的な教育課題に対応するため、様々なテーマによる研修内容の充実を図ります。	学校教育課

具体的な取組

取組	内容	担当課
ICT支援員の配置	学校現場で各種 ICT 機器の操作に対する助言や活用事例の紹介、校内研修の支援等を行う ICT 支援員を配置し、教員の業務負担の軽減及び ICT 活用指導力の向上を図ります。	学校教育 ICT 推進室

施策 14 将来を見据えた学校施設づくり

現状・課題

- 国全体で、様々なインフラの老朽化対策や安全性の向上のための取組が進められています。本市においても、今後、公共施設の老朽化対策や建替え等が必要になってきますが、一方で人口減少、少子高齢化の進行により公共施設の需給バランスや市民ニーズが変化してくることが想定されます。このような中、本市では、平成 26 年 10 月に「小牧市公共施設白書」を作成し、公共施設の配置や利用状況などに関する現状・課題を明らかにしました。
- 「小牧市公共施設白書」における実態把握や分析をもとに、小牧市では「公共ファシリティマネジメント※基本方針」「公共施設適正配置計画」「公共施設長寿命化計画」が、平成 28 年度に策定され、学校を含む教育施設についても、これに基づき「学校施設整備計画」を策定し、対応を進めていく必要があります。
- 平成 28 年 3 月に策定した「小牧市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略」の長期的な人口の見通しによると、本市の人口は今後、減少していくことが見込まれています。本市の少子化の状況はまだ深刻ではありませんが、今後、児童生徒数を見通す中で、必要に応じて学校規模の検討を進めていく必要があります。
- 学校で使用する各種教材は、児童生徒の学習活動を充実させる観点から、時代に合わせた整備が必要となっています。本市では、全小中学校への**児童生徒 1 人 1 台タブレット PC、電子黒板機能付きプロジェクタ、校内・校外通信ネットワーク、授業支援ソフト、指導者用デジタル教科書、デジタルドリルソフト等の整備などにより**、充実した教育環境を整備しています。今後も、時代に対応した ICT※環境の整備や、必要な設備・備品等の導入を図っていく必要があります。



学校施設の耐震化



電子黒板※などの ICT※環境

具体的な取組

取組	内容	担当課
学校施設の長寿命化計画の策定	小牧市全体の計画である「公共ファシリティマネジメント※基本方針」「公共施設適正配置計画」「公共施設長寿命化計画」と整合を図りながら、学校施設の長寿命化計画を策定します。	教育総務課
学校施設の設備改修	建物の予防保全型修繕（工事）を計画的に実施し、そのための財源確保策の一環として、次世代教育環境整備基金を活用します。また、随時発生する小規模な不具合は、修繕費で対応するほか、環境整備事業を活用します。	教育総務課
教材等備品の整備・充実	小中学校隔年ごとで対象校に対し、より効果的な授業展開を可能にし、教育効果を高めるため、教材整備指針及び理科教育等設備基準に示された理科設備備品を理科教育振興法により整備します。	教育総務課
ICT※機器の整備・充実	学校のニーズに即したICT※機器及びソフトウェアの導入、デジタル教科書の更新、進化するICT※環境に対応したネットワーク環境の整備を行います。 また、国県の動向を踏まえつつ、学習者用デジタル教科書の効果的な活用について研究します。	教育総務課 学校教育ICT推進室
小牧市通学区域審議会への諮問	学校規模の適正化に伴い、学校区の変更がある場合、小牧市通学区域審議会への諮問を検討します。	教育総務課
将来的な学校規模の適正化に関する調査・研究	小牧市全体の計画である「公共ファシリティマネジメント※基本方針」「公共施設適正配置計画」「公共施設長寿命化計画」と整合を図るとともに、方向性を踏まえ、児童生徒数の動向に応じて減築・廃校や統合、分離新設校の新設等を検討します。	教育総務課
小中一貫教育に向けた調査・研究	小中一貫教育を実施する場合は、現在の敷地・校舎の状況を整理し、その学校にふさわしい形態（施設一体型・隣接型・分離型）を検討します。	教育総務課